

[資料翻訳] 山本覚馬著英文

『京都とその近郊の名所案内』（1873）

A Japanese Translation of

‘*THE GUIDE TO THE CELEBRATED PLACES IN KIYOTO &
THE SURROUNDING PLACES* BY K. YAMAMOTO.’ (1873)

Izumi Chiyoma

千代間 泉

要 旨

この資料翻訳は、明治6（1873）年に発行された、山本覚馬著、丹羽圭介出版の『外国人訪問客の為の京都とその近郊の名所案内』の全文を英語から日本語に訳したものである。本書は、明治維新後衰退した京都復活の起爆剤として開催された京都博覧会に、入京が許された訪日外国人のために発行された。本書は山本覚馬の指揮の下、丹羽圭介を主として製作され、初版から数年間版を重ねたと考えられる。又、京都を英語で紹介したガイドブックとしては、日本初であると思われる。本翻訳には、墨流し柄の表紙で、複製本の原本でもある同志社大学図書館蔵書を使用した。

キーワード：英文京都案内、明治6年、山本覚馬、京都博覧会、インバウンド観光

解 題

本解題では、本書が制作された目的、成立時期、制作に携わった人々、本書の歴史的な位置づけについて確認する。

はじめに、本書は明治6年3月13日～6月10日までの90日間の間、京都御所、仙洞舊院で開催された第二回京都博覧会に入場した外国人訪問客の為に作成された。本会場入場者は706,057名、外国人は634名の入場が記録されている¹。

第一回京都博覧会は、明治5年3月10日から5月末日までの80日間開催された。会場は本願寺対面所、白書院・黒書院、建仁寺方丈、知恩院の大方丈・小方丈の6か所で行われ、「入場者は日本人三万千百三人、外人は七百七十人」（京都市『京都の歴史8 古都の近代』學藝書林、1975年、128-129頁）であった。京都のみならず比叡山、琵琶湖遊覧まで出来る様になり、来遊する外国人への「おもてなし」並びに実用的便宜を図る京都案内の必要性があり、本書は制作された。

『京都府教育史』には、以下のように当時の様子が描かれている。

尚外人の遊覧客招致のため、外務省に依頼して外人筋に廣告した事は効果があって、上海、香港等からさへ来る者があった。それには山本覺馬が門弟の丹羽圭介と書いた英文の案内記を、丹羽氏等自らの手で印刷して賣つたのが非常に好評を博した。此書は四十八頁の小冊子ではあるが、色々な意味で記憶すべき珍書である。（京都府教育会『京都府教育史』上、1940年、390頁）

日本国内に居住する外国人だけでなく、近隣の国々からも京都博覧会を目当てに訪日した外国人のために制作され好評であった事、本書の販売価格については他の文献にも全く情報はないが、丹羽をリーダーとして販売したと書かれている。

又外国人対応に関連して大変興味深い記述があった。京都府は「旅館の設備には府で心を砕き、通弁、接待、警備等には、欧学舎や舎密局の生徒も手伝をした。」（同、388頁）の部分である。

本書の成立時期について、出版者の丹羽圭介は「山本覺馬氏の指導により私が主となって拵えたものであるが、もちろん京都最初の欧文活版印刷であった。以上はすべて明治六年のことで、御所を拝借した当時の博覧会は、実に京都の産業文化に一新紀元を劃した年である」（大槻喬編纂『京都博覧協会史略』1937年、348頁）と述べている。

同書40頁には「明治五年には未だ英文活字はなく、同年設定の“外国人入京規則”は英文木版を以て印刻」されたと書かれている。本書は英文活字で印刷されているので、これらの文献から本書の初版が出版されたのは明治六年である事は確かであろう。

第二に、本書の制作に携わった人達について『改訂増補山本覺馬傳』には以下のように触れている。なお下記の情報は他に確認できる文献は現在まで見当たらず、根拠は未確認である。

1. 明治四年ドイツ語教師ルドルフ・レーマンの兄弟であるハルトマン、レーマンの手を経て印刷輪転機を独逸から輸入。集書院に保管の後、明治五年山本の求めで丹羽が組み立てを試みたが出来ず、完成写真を参考にしてルドルフ・レーマンが機械を組み立てた。
2. 英文の案内記の原稿は先生の娘（後横井時雄夫人）の婿養子にする積りで山本家に居った喜三郎といふ人と丹羽氏とが美濃紙に筆で書いた。
3. 活字は先生の妹八重子（後新嶋襄先生夫人）が拾った。解版も八重子と丹羽氏の妹とがやった。
4. 印刷された案内記は四十八頁で洛中洛外の絵入りである。
5. 文部省の認可を経て発行したので、著者は山本覺馬出版者は丹羽圭介である。
（青山霞村『改訂増補山本覺馬傳』（住谷悦治校閲）京都ライトハウス、1976年、99頁）

4. については同書に「銅版で地図付の簡単な案内記を作った（同書、117頁）」とあるように、銅版画に各々の名所が詳細に描かれ、一見するだけでも名所の様子や魅力がわかるようになっている。銅版画の作者については、「銅版京都名所」の銅版画が使われ「石田雨麦亭（石田有年）」（宇治市歴史資料館『幕末明治京都遊覧銅版画の世界』、2018年、45頁）が作者と記されている。地図は石田旭山（才次郎）の制作である。

近年の研究で、本書には複数の版がある事が明確となった。小嶋正亮は研究の「おわりに」として以下のように述べている。「山本覺馬を著者とする明治初期に刊行された外国人向け京都名所案内が、大きく分けて三種存在すること、そのうちこれまで明治六年刊行と広く紹介されてきたC本が同10年以降に刊行されたものであること」²である。この中で示されたC本は同志社大学図書館蔵書を含んでいる³。明治10年とは、明治10年2月10日の鉄道開通の事を指す。これらの異なる版と出版の歴史については、別稿を用意する。

第三に、本書のガイドブックとしての歴史的な位置づけについてであるが、長坂契那は「1881年以前に出版されていた『旅行』もしくは『案内』という単語が表題に掲載されていたもの」（長坂契那「明治初期における日本初の外国人向け旅行ガイドブック」『慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要』2010年、69、106頁）を出版年の古い順に挙げ、2番目に本書を挙げている。長坂は日本最古の旅行ガイドブックにつ

いて、以下のように述べている。

外国語による日本最古の旅行ガイドブックは、資料①のデニスによる 1867（慶應 3）年『中国・日本開港地案内』であった。（中略）全体の三分の二である 22 都市が中国の都市を書いており、日本に関しては開港した長崎、横浜、箱館（函館）、兵庫、そして当時の政府に当たる幕府があった江戸の 5 都市に限られていた。そして日本編の記述は伝聞によるために情報の出所が曖昧で概要しか書かれていないので、編集したデニスは日本に滞在したことがないと判断できる。（同、107 頁）

この研究から、外国語による日本最古の旅行ガイドブックはデニスによる『中国・日本開港地案内』と思われる。又日本最古の外国語による「京都」についての旅行ガイドブックは本書である可能性が高く、しかも日本人によって英語で書かれた日本初の英文ガイドブックであると言えよう。

本書は、名所を特定して翻訳し、その内容を論ずる研究はあるが、全文を日本語に訳した文献は見受けられない。そこで本書を翻訳することにより、この貴重なガイドブックの内容を明確にし、明治初期における外国人を対象とした京都の名所並びに各々の見どころを明らかにする。本書に込められた意図、その後国内外で発行されたガイドブックに参考にされ、影響を与えた可能性を理解し、今後の研究に生かすためにも、全体を翻訳する意義は大きいと思われる。

本書の特色

翻訳をする際に気づいた本書の内容の特色を箇条書きにする。

1. 京都博覧会用に作成されたので、第二回会場であった御所、第一回会場であった知恩院並びに本願寺、宿舎であった円山、神戸から京都への交通について稲荷、八幡の石清水等にそれぞれの関連が記されている。「遊覧区域は琵琶湖まで延長させ」（青山霞村『改訂増補山本覚馬伝』住谷悦治校閲、京都ライトハウス、1976 年、117 頁）たので、琵琶湖周辺、並びに京都の名産品の紹介、販売促進として清水焼、宇治茶、西陣織等が記述されてある。
2. 一見安易な文章に見えるが、文法通りではない箇所が多く見受けられる。
3. 現在の読み方、書き方にそぐわない綴り、並びに誤植と思われる単語が多数ある。例えば‘Kiyoto’のように地名、人名について表記は現在と異なる。

4. 原文には ‘splendid’ (splendor を含む、25 回), ‘magnificent’ (10 回) など名所を讃える単語が頻出する。
5. 固有名詞では、そのまま読みを英語で書いているものが多い。例えば、「御所」は ‘Gosho’ である。「天皇」という単語は 18 回使われるが、そのほとんどが ‘Tenno’ (11 回)、‘Mikado’ (3 回)、現在一般的に天皇を表す ‘Emperor’ は 4 回であった。「将軍」については ‘Shogun’ のまま 5 回使われている。
6. 地図には当時日本でも最先端の小学校、外国語学校、電報局、郵便局、鉄道等の記載がある。
7. 地図は、薄い和紙の両面を使い鮮明に印刷されてある。

凡 例

1. 本翻訳には、同志社大学図書館蔵の『The Guide TO THE CELEBRATED PLACES IN KIYOTO & THE SURROUNDING PLACES BY K. YAMAMOTO. KIYOTO. PUBLISHED BY NIWA. THE SIXTH YEAR OF MEIJI. 1873.』を使用した(請求番号、291.62||Y)。総頁数は 48 で、寸法は縦約 18.0 cm、横約 16.7 cm、厚さ約 0.6 cm、折り込み地図は 1 枚の表裏に印刷されており、縦 32 cm、横 40 cm である(筆者調べ)。墨流し模様の表紙で、糸とじ、銅版挿絵がのり付けされている。
2. 地図に書かれた英文の翻訳は、今回地図の名所以外の英文、英語の翻訳に留めた。
3. 本書では、原作の風合いを残すため、できるだけ原文に合わせた日本語訳を行い、意訳は極力控えた。そのため、言葉の重複や不自然な表現がある。原文中の誤植で顕著なものは注に記し、内容に関する間違い、現在と異なる表現の仕方、並びに不適切な人道上の表現がある場合においてもそのまま訳し、必要があれば注でコメントをした。
4. 人物で名前を補足した方が良い時は () 内に加えた。
5. 現在、日本の寺社仏閣を英語で説明する際に、慣例的に神社は ‘Shinto shrine’、仏教寺院は ‘Buddhist temple’ と使い分けられる事が多い。本書では寺社について、原文は全て ‘temple’ である。神道、仏教の明記の無い文章については ‘temple’ を「寺社」と訳した。‘Buddhism’ と明記がある場合には「寺」、‘Shinto’ と

明記がある場合には「神社」と訳した。本書には「若王子」のように、現在の宗教と違う寺社も見受けられた。

6. 三条大橋からの距離は丁や里という江戸時代における日本の長さの単位に基づいている。1 町（丁）は 109.09 m、1 里は 3.93 km で計算し、筆者が（ ）内に追記した。又、本文内の説明で大きさを表すために使われたフィート、インチという単位については、1 フィートは 30.48 cm、1 インチは 2.54 cm で計算し、筆者が（ ）内に追記した。
7. 本書には、各々の名所の紹介ページの上部には、銅版画が貼られている。本書には銅版画のみと本文があるが、国会図書館の本⁴には銅版画の上辺に漢字でタイトルが記されている。本翻訳では、個々の頁、タイトル、その横の【 】内に銅版画上の日本語タイトルを記した。

表紙

京都とその郊外の名所案内⁵ 著者 山本覚馬⁶／京都／出版者 丹羽（圭介）⁷／明治 6 年／1873

中表紙（2 枚目）

外国人訪問客の為の⁸／京都とその郊外の名所案内／著者 山本覚馬／京都／出版者 丹羽（圭介）／明治 6 年／1873

序文（3 枚目）

この小さな本は、特に京都博覧会に来場した外国人訪問客の便宜を図るため書かれました。

外国人訪問客は入京の際、多分自分達の国々に土産話⁹を持って帰るために有名で素晴らしい場所を色々訪問したいと熱望するでしょう。しかし名所を全ては見つけ出せないかも知れません。そんなときこのガイドブックがあれば、多分この本の便利さが証明されるでしょう。

(4 枚目) 目次¹⁰

京都の街 1	真如堂 10	大仏 19
三条大橋 2	吉田 11	耳塚 20 ¹¹
御所 3	銀閣寺 12	蓮華王院（三十三間堂） 21
祇園 4	丸山 13	稲荷 22
智恩院 5	東大谷 14	泉涌寺 23
南禅寺 6	八坂 15	東福寺 24
若王寺 7	清水 16	宇治 25
黒谷 8	清水の陶器 17	
永観堂 9	西大谷 18	

(4 枚目裏)

黄檗 26	東寺 29	梅宮 ¹² 32
西本願寺 27	石清水（八幡）30	嵐山 33
本圀寺 28	長岡 31	清涼寺 34
仁和寺（御室） 35	上賀茂 40	唐崎 45
大徳寺 36	下鴨 41	瀬田 粟津 石山 46
金閣寺 37	鴨川 42	比叡山 47
北野 38	大津 堅田 比良 43	
西陣 39	琵琶湖 44	

京都市街の地図¹³

(地図左上)

1873 年 京都 丹羽作成

(地図中央下)

日本 京都 石田旭山¹⁴ 銅板彫刻者

寺社の印として ●（ママ）

神道という宗教の印として 卍（ママ）

逓信局の印として T. S.

郵便局の印として P. O.

(地図右下)

欧学舎の印として E. S.

小学校¹⁵の印として ■ (ママ)

図書館の印として L.

劇場の印として ▲ (ママ)

鉄道の印として 𠂔 (ママ)

京都市街の周辺地図¹⁶

本文

1 京都の街

京都の街は平安という名の日本の首都として、約 1,030 年前にこの国を統治した桓武天皇によって創始されました。その時から京都は特に変わりなくありましたが、内戦が勃発すると戦いの火ぶたはいつもここで始まりました。なぜなら日本の天皇は皆、ここに住んでいたからです。京都は偉大で多くの有名で素晴らしい天皇の宮殿、寺社がある最も有名な都市です。そして絹のドレスや陶器等の、人間にとって必要な製造品においても最も有名です。

この心地よい場所はそれぞれ、東山と西山という 2 つの地区に分けられます。東山は西山から鴨川を境に区別され、京都の東側を含みます。西山は仁和寺、金閣寺などの西側部分を含みます。

最初のページに京都の市街地図、次のページに京都近郊の色々な場所が見られるでしょう¹⁷。

2 三条【三条大橋】

鴨川にかかる三番目の橋である三条は、全ての方向において距離を測り、定めるために最も便利な起点です。それは京都から大津や伏見等に行くのは何町か、などと尋ねる時、地元の人はこの橋からの距離を言う事が多いからです。だから、名所への距離はこの橋から述べるようにしましょう。

この橋は西暦¹⁸ 約 1600 年の（豊臣）秀吉の偉大な努力以前には、何度も洪水によって壊れました。

始めに秀吉は鴨川の堤を高く堅固にしたので、堤防はそれ以降壊れる事なく今もそのままです。

次に秀吉は三条、四条、五条という橋を建設し、橋の下の川底に大きな石を敷きました。そうすれば橋は以前のように簡単に壊れる事がないからです。

3 御所【御所】

天皇の古い住まいであり、(京都) 博覧会が開催されている建物である御所¹⁹は、この国の中で最も素晴らしい宮殿です。

内側の堀の中にある建物は紫宸殿と呼ばれ、この国の政府の古い所在地でした。

紫宸殿の右奥は清涼殿という建物です²⁰。

外の堀には6つの素晴らしい門があり、中の堀には3つあるので、それらは九門と呼ばれています。

博覧会の実施まで、宮廷の高官である公家以外は宮廷内に入る事は許されませんでした。

ですから人々は今回、この宮殿を訪問したいと熱望しています。

三条から北東²¹の方角に15町²²(約1.6 km)の距離です。

4 祇園【洛東八坂社】

祇園は東山で最大ではありませんが、最も有名で素晴らしい寺社なので、私の話しはその場所から始めましょう。そして祇園から徐々に北に進みます。祇園社の創設者は西暦860年頃この国を治めた清和天皇でした。ですが、何度か火災で焼失し、又地震に揺さぶられました。ですからその時代以降、何度も再建されています。現在の建物はとても威厳があり、その形はとても小さいですが、紫宸殿の建物に良く似ています。

入口を入ると巨大な門が見えるでしょう。

その門は屋根以外全て赤色です。

又寺社の入口には2本の柱と横に1本の梁²³がある大きな石づくりの鳥居と呼ばれるものがあります。

この小さな本で話す事は沢山あるので、今は祇園を離れなければなりません。

5 知恩院【洛東智恩院】

ご存知のように、昨春開催された前回の(京都) 博覧会の会場であった知恩院は、京都のなかでも広く、最も荘厳な寺社の一つです。

西暦1202年頃、国中に仏教を広める目的の為に活躍した僧源空によって建てられました。

素晴らしく、広大で、卓越した建物である現在の建物は、左甚五郎²⁴という高名な大工によって建てられました。

高さ 18 フィート（約 5 m 49 cm）、厚さ 10 インチ（25.4 cm）の大きな鐘もあります。

鐘はその建物の南東の方角の丘の上にあります。

三条から約 8 町（約 873 m）です。

6 南禅寺【洛東南禅寺】

南禅寺は西暦 1260 年頃亀山天皇の宮殿でした。彼は仏教の信者になった後、ついには仏教の寺として仏像を納める為の建物を献上しました。それが今も残っています。

大変立派な庭があり、この銅版画に見られるように、住職²⁵の住居は本当に美しい²⁶です。

特筆すべきは門の近くにある、大きいトーロー又は石灯籠²⁷です。

距離は三条から 14 町（約 1.5 km）です。

7 若王子【洛北若王寺】

若王子²⁸は 1220 年頃仏教崇拝のため、後白河天皇によって建てられました。沢山の人々が、夏の涼を求めて 3 本の滝を訪れます。

秋には赤く色づいたモミジ（紅葉）²⁹の名所です。南禅寺に近く、三条から約 16 町（約 1.7 km）です。

8 黒谷【洛北黒谷】

黒谷は京都の中で最も大きい境内の内の一つです。そして仏像が納められている本堂は美しい建物です。三門と呼ばれる美しい楼門があります。創建者はこの国に仏教を根付かせる事に成功した中の一人、円光大師と言われる人です。

三条から 19 町（約 2.1 km）です。

9 永観堂【洛北永観堂】

永観堂は仏教崇拝の為に、854 年に文徳天皇によって創建されました。

この寺の仏教の最初の説教者は、有名な僧、弘法大師の孫である真紹³⁰でした。

人々が大変神聖だと思う沢山の素晴らしい仏像があります。

特筆すべき立派な庭園があり、この場所は東山で最も立派な場所の一つとして知られています。

南禅寺の近くです。

10 真如堂【洛北真如堂】

真如堂は多数の小さな建物を含む御所から東にある素晴らしい寺です。

この場所は京都の中でも立派な花々と美しい紅葉で最も有名な場所の一つです。

中国から来た仏教崇拝の為に 1050 年頃白河上院³¹ によって建てられました。

三条から 23 町（約 2.5 km）です。

11 吉田【洛北吉田社】

吉田はこの国の神道の中で大変古く、有名な神社です。

現在の建物はほとんどすべて赤で彩色されています。

この写真³² から見られるように、立派な木々がそこには茂り、大変気持ちの良い場所です。

三条から約半里（約 2 km）です。

12 銀閣寺【洛北銀閣寺】

銀閣寺は昔も今もその見事さで最も有名な場所です。

この寺は 1400 年頃に自分の楽しみの為に足利將軍によって銀で飾られた事から「ギンカクジ」³³ という名前になりました。

寺は今もそのままですが、大変古いので銀はもう今では全く見られません。

立派で素晴らしい庭園は、沢山の種類の常緑樹や可愛い花々のある、立派で気持ちの良い庭園があります。

庭の中心にはきれいな魚のいる小さな池があります。

三条から 32 町（約 3.5 km）です。

13 円山【洛東丸山】

祇園の東にある円山は有名な僧侶によって創建されました。

市街全てが丘の上から一度に見られる旅館等があり、この都³⁴ の最も輝ける風景の内の一つを手に入れる事ができます。

ですから、博覧会の為に京都を訪問する外国人用のホテルを用意しました³⁵。

銅版画に見られるように、沢山の種類の花々や果実の実る木々の優美で明るい庭園と美しい石が色々あります。

春には沢山の桜の木に花がとても美しく咲きます。ですから人々は円山へ行き、旅館等の宴会場³⁶ から満開の花々を見下ろしながら宴会をします。

これが人々にとって最も楽しい娯楽です。円山は三条から 10 町（約 1.1 km）の距離です。

14 東大谷【洛東東大谷】

東大谷は西暦 1690 年頃建てられ、その仏像は人々が大変神聖だと考える阿弥陀仏³⁷です。

この理由からその建物は他の建物より一層大きく作られました。

京都の魅力的な風景だと定評を得ているので、最も有名な場所の一つと呼べるかもしれません。

唐門と呼ばれる素晴らしい門があります。その門に入る前に、両側にうっそうとした木々のあるとても素敵な道を見つけるでしょう。祇園に近く三条から 12 町（約 1.3 km）です。

15 八坂の塔【洛東八坂塔】

八坂の塔は昔、仏教という宗教を初めて崇拝する為、聖徳太子という偉大な皇子³⁸によって創建されました。その後塔が倒れたので、最も有名な將軍であった（源）頼朝によって再建されました。

現在の塔はこの挿絵にあるようにとても高く形が良いです。

清水への道の途中にあり、三条から 12 町（約 1.3 km）です。

16 清水【洛東清水寺】

京都で最も荘厳な寺社である清水は桓武（天皇）が都を作った際、大悲信仰³⁹のために（坂上）田村麻呂によって創建されました。

舞台と呼ばれる大きな粹組の上に立っています。

丘の上の道々はとても歩きやすく、寺に上るのにとても便利に舗装されています。

本堂、または本尊が納められている建物は広く、素晴らしいです。

そしてその本尊は京の人々が今も最も信仰する仏像の内の一つです。

ですからこの場所が、少なくとも 100～200 人の男女、特に女性が訪れない日は一日ありません。

ここからの眺めは、京都の全景が見えるため、京都で最良の眺めと言われていると思います。

三条から約 20 町（約 2.2 km）あります。

17 清水焼の陶器【五條ノ陶器】

清水への道には、素晴らしい陶器が沢山ある陶器店が多数あります。

そこで作られた皿、急須、湯呑等は優れている事でとても有名です。品質が大変良いものは価格が高いです。

京都の主要な製造品の一つです。

国内のほとんどの地に、素晴らしい価値のあるものとして発送されています。

18 西大谷【洛東西大谷】

親鸞聖人はその宗教⁴⁰を広めるため西暦 299 年（ママ）頃に西大谷の建物を建てました。

そして 1709 年頃徳川の命により再建されました。

その寺院はとても美しく、立派な庭園に囲まれています。

その寺院を上るには、メガネバシ（眼鏡の橋）⁴¹と呼ばれる特殊な形の素晴らしい石橋を渡ります。

池の周りにはとても美しい緑の木々と桜の木々があります。

唐門と呼ばれる壮大な門があります。

清水に近く三条から 18 町（約 2 km）です。

19 大仏【洛東大佛殿】

（豊臣）秀吉は大仏と呼ばれる大変巨大な像⁴²も⁴³作りました。

木造で重厚に上塗りされています。

像は高さ 160 フィート（約 48.8 m）、像を覆う建物は高さ 200 フィート（約 61 m）です。

建物と像は地震や雷⁴⁴によって数回壊れました。

今日の像は木造で、本来の像の粗い模造品でしかありません。

元の場所には、大きい鐘以外残っていません。大鐘は高さ 14 フィート（約 4.27 m）、直径 9 フィート 4 インチ（約 2.85 m）、厚さ 9 インチ（約 22.9 cm）あります。

大仏は三条から南に 15 町（約 1.6 km）です。

20 耳塚【大佛耳塚】

耳と鼻の墓である耳塚は、西暦 1590 年頃太閤秀吉が建立した大仏の門前にあります。この有名人に仕える大将達が 15 万人の兵力で朝鮮を侵略した時、秀吉は戦闘中に殺害した敵の耳と鼻を朝鮮から持ち帰り、自分に見せるよう命令しました。なぜな

ら戦闘で殺害した敵の頭部を切断し、王や大将に見せるという古くからの日本の慣習があったからです。

しかしその時代⁴⁵、距離が遠すぎるため、殺された朝鮮の兵士の首を日本に持ち帰る事は不可能でした。

このような理由で秀吉は上記の命令を出しました。

日本に持ってこられた耳と鼻の全てはこの場所に一緒に埋められました。

この墓は周囲 720 フィート（約 219.46 m）で高さ 30 フィート（約 9.14 m）です。

21 蓮華王院（三十三間堂）【洛東三十三間堂】

大仏の近くには、後白河天皇が 1150 年に創建した蓮華王院があります。

彼はこの寺を特に観世音⁴⁶の崇拝のためと定めました。

最も大きな建物は三十三間堂と呼ばれ、1000 体の像があります。

それぞれの像は 5 フィート（約 152.4 cm）の高さです。

この寺院建立のずっと後に、弓道をする人達の間で、縁側と建物の廂の間に沿ってどこにも触れる事なく弓矢を放つ、という慣習が始まりました。

矢が刺さった痕跡は今でも沢山の柱等⁴⁷に見る事が出来ます。

22 稲荷【洛南稲荷社】

伏見へ行く道の途中にある神道の社である稲荷は、この国で最も有名な神社です。

ほとんどどこでも祀られている稲荷社の総本宮です。

この神社は淀川が見られる稲荷山という名の丘に立っています。

三条からその神社までは 37 町（約 4 km）です。

23 泉涌寺【洛東泉涌寺】

泉涌寺は西暦 850 年頃文徳天皇の治世の下、高官であった（藤原）緒繼⁴⁸によって建てられました。

その後天皇方の墓所として使われています。

蓮華王院の南東にある小さな谷に位置しています。

三条大橋より 28 町（約 3 km）の距離です。

24 東福寺【洛東東福寺】

伏見から京都への道沿いにある東福寺は、鎌倉の将軍（藤原）頼経によって 1230 年頃建立されました。

最も大きく最も立派な本堂の他に、多数の素晴らしい建物があります。

長い塀がその寺社を囲み、立派な木々⁴⁹が寺の前に生えています。

三条大橋から 23 町（約 2.5 km）です。

25 宇治【洛南宇治】

淀川の東にある宇治村は、この国の茶の産地としてとても有名⁵⁰です。少なくとも樹齢 200 年から 300 年のとても古い茶の木々があります。この村の土壌は、日本の中でも他に並ぶ場所がないほど茶木に最適です。この村に住むほとんど全ての人々が茶木を栽培し、世話をしています。

莫大な量の茶は全国、又海外の国々に出荷されます。この国の最も主要な生産物です。

春には、女性と少女たちがその木々の茶葉を摘み、それは美しい風景です。

京都から南西の方角にあり、三条からその村への距離は 3 里⁵¹（約 11.8 km）です。

26 黄檗【洛南黄檗山】

黄檗万福寺はこの市の南方にあるとても素晴らしい寺社です。

創建者は 1650 年頃に中国から来た福清⁵²と呼ばれた中国人でした。

彼は徳川の命令により、このような素晴らしい建物の数々を建てました。

大変豪華に建てられた壮麗な門と建物が複数あります。

27 本願寺【洛内本願寺】

前回の博覧会の開催地であった寺社である本願寺は、1260 年頃にこの国を治めた亀山天皇が創建しました。

京都の中で最も有名な寺社の一つです。

大きく立派な塀がその寺社を取り巻いています。

飛雲閣と名付けられた美しい小さな建物を含むとても優雅な庭園があります。

この寺社の本堂は美しさと大きさとで大変有名です。

西六条に位置しています。

三条から 26 町（約 2.8 km）です。

28 本圀寺【洛内本圀寺】

堀川通松原の南⁵³にある本圀寺は、有名な僧侶日蓮によって創建されました。

境内にはとても形の良い塔と他に小さな建物が点在し、そして緑の木々がある立派で広い所です。

他の寺院にもあるような背の高い門があります。

この本堂の裏には客殿と呼ばれる建物があります。

客殿の廻りには、立派な木々が沢山あります。

御所から距離にして 24 町（約 2.6 km）です。

29 東寺【洛内東寺】

この市の南西角に位置する東寺という寺社を創ったのは、弘法大師空海⁵⁴ という有名な僧でした。

東寺は京都の中で最も大きい寺社の一つです。

高い塔（トゥ）⁵⁵ は人目を惹き、遠くからでも見る事ができます。

とても荘厳な建物と木々、そしてその場所全部が大きな塀で囲まれています。

毎月 21 日には大変沢山の京都の人々がここに来て、像を拝みます。

30 八幡の石清水【南城八幡社】

この市の南西部にある八幡の石清水は、神としてこの国をかつて治めた偉大な天皇を崇拝するため、清和天皇が建立しました。

淀の南西にある八幡の丘に位置しています。大阪から伏見へ川を遡上する船からその丘がみられます。

建物はとても素晴らしく豪華で、日本で最も崇拝された人々⁵⁶ に捧げられた寺社の内の一つと呼ばれています。

三条から距離にして約 4 里（約 15.7 km）ほどです。

31 長岡【洛南長岡社】

長岡の天満宮は 870 年頃に活躍した菅公⁵⁷ という有名な人物に献じられた寺社です。

彼は博学で徳があったので、今日まで人々に神として崇拝されています。

菅公は今なお、この国の殆どすべての場所で崇拝されています。

この寺社はとても良い場所にあり、開田という村の西にあります。

三条から 3 里（約 11.8 km）です。

32 梅宮【洛西梅ノ宮】

梅の宮は西山の中で最も壮麗な場所です。

とても素敵な池があり、池の真ん中には小さな島があります。その前にはとても快適に過ごせる寺社である大きな建物があります。

島の中には小屋があり、小さな橋が池にかけられています。

西山のこれらの名所⁵⁸を訪ねるようでしたら⁵⁹、
行くべき場所を忘れないようにして下さい。なぜならそれは、京都の西の方角の中
で最も立派で一番有名だからです。

三条から 56 町（約 6.1 km）離れています。

33 嵐山【洛西嵐山】

嵐山は京都の西部にあります。

この丘のふもとには、その廻りを流れる大きくて清らかな⁶⁰川があります。

春に咲く沢山の美しい桜の木々と、秋にはとても美しい花のように全て赤くなる紅葉⁶¹があります。

川の中には琵琶湖にいるのと同様に、美しい魚がいます。

沢山の人々が訪れ、春には美しい花、秋には明るい紅葉⁶²を見上げてご馳走を食べ
ます。

本当に最良の風景の一つです。

三条から 2 里（約 7.9 km）の距離です。

34 清凉寺【洛西清凉寺】

清凉寺は西暦 1000 年に仏教⁶³を学ぶ為中国へ渡った、奈良東大寺の僧裔然⁶⁴によ
って建立されました。

それは西山の中で、立派な塔と素晴らしい門楼を持つ、最も素晴らしい場所の一つ
です。

三条から 18 町（約 2 km）です。

35 仁和寺【洛西御室】

最も素晴らしい境内を持つ寺の一つである御室仁和寺は、西部に位置します。

光孝天皇が仏教を信仰するために創建しました。

その後、この国で最も位の高い⁶⁵寺の一つになりました。

今回この寺で高価で古いもの等が多数展示されました。（豊臣）秀吉や他の大名に
よって献上された、金銀で飾られた高価な品々がそこにはあります。

寺内には、春に美しく咲く沢山の花々と見事な木々があります。ですから多くの
人々が、そこで開花した桜の花を見上げながら宴会をします。

寺は宮⁶⁶の名の下、代々親王が僧侶になるので大変立派です。

36 大徳寺【洛北大徳寺】

大徳寺は仏教を学んだ事でとても有名な僧である大燈国師⁶⁷によって創建されました。

山内の建物は皆荘厳で、それぞれ素晴らしい仏像が納められています。

寺の入口には、とても豪華な造りの門楼があります。

寺は今宮通の南にあります。

三条から 25 町（約 2.7 km）の距離です。

37 金閣寺【洛西金閣寺】

金閣寺は北野（天満宮）の北東にあり、足利将軍が完成した銀閣寺の少し前に建てられました。

金箔⁶⁸で装飾された塔⁶⁹が、今も庭園の真ん中に建っています。しかし大変古いため、現在薄い金ほんの少ししか見られない状態です。

しかしその雄大な建物と立派な庭は今も残っています。

それらは素晴らしく荘厳な事で銀閣寺より優れています。

この庭はとても広く、素敵なものが多数あります。

塔の前には沢山の魚のいる池があります。

京都の中で最も大きく素晴らしい寺の一つと呼べるかも知れません。

三条から 50 町（約 5.5 km）の距離です。

衣笠と呼ばれる立派な丘がそこからも見られます。

38 北野【洛北北野神社】

最も学問に優れ公正な人であり、大昔⁷⁰の人々の幸せを願い努力した菅公のために開かれた北野の天神は、素晴らしい神社で、その本社は帝の邸宅と全く同じです。

その社は御所の西、金閣寺に行く途中にあります。

神道の社の入口には、いつも大きな鳥居があります。

建物の立つ場所はとても心地よく、立派な森が周りにあります。

三条からこの神社までの距離は 41 町（約 4.5 km）です。

39 西陣【西陣織物】

西陣はこの国の絹織物製造で最も有名な場所です。

日本の最も鮮やかで価値ある布地がそこで作られ、金で装飾された着物⁷¹も又織られています。

そこでは今回⁷²も又、冬に重宝される襟巻⁷³が沢山製造されました。

西陣で織られた襟巻は現在、京都でとても広範囲に普及しています。

外国産のものよりもずっと安価なので、京都から他の都市へ高級品⁷⁴として出荷されています。

40 上賀茂【洛北上加茂】

下鴨と同時期に創建された上賀茂は又、政府から補助金が支出される社の一つです。

豪華さと大きさで下鴨に勝っています。

その建物は本当にとっても豪華です。

この広い境内の中で競馬⁷⁵が毎年あります。

遠いですが、その道は鴨川の堤防に沿ってあり、多くの木々が植わっているので、歩くときとても気持ちが良いです。

三条からの距離は 66 町（約 7.2 km）です。

41 下鴨⁷⁶【下加茂】

下鴨は古代におられた玉依姫を祀るために、天武天皇によって創建されました。

日本の歴代天皇の殆どが祝日や祭の時にいつも訪れる特別な場所です。

ですから下鴨は政府からの補助金がある社の一つです。

ホンシャ又は像が置いてある建物⁷⁷の前に鳥居が 3 つある素晴らしい社です。

その寺社は立派な古い森に取り囲まれています。

鴨川が分かれるこの都市の北側に位置し、三条から 20 町（約 2.2 km）です。

42 鴨川【鴨川堤】

鴨川は北部の山から発生した貴船岩屋川の水が集まり、形成されました。

この川は二条、三条、四条、五条の橋を通過して、京都の東部に流れます。そして最後に淀の西側にある淀川に流れ込みます。秋に長い期間雨が降ると、川の堤防は大変早く浸水し、橋を倒し、田畑を不毛にし、農家の人達には何も残りません。この川は堤防の乾いた場所に大きく布を広げて、麻や綿の布を晒す事で有名です。鴨川の水は又、高瀬と呼ばれる小さな運河に水を供給しており、高瀬川は二番目の橋である二条から伏見までを流れています。この運河はとても浅いのですが、大変多くの物資が、特別に作られた小さな船によって荷物の上げ下ろしをされ、向きを変えます。

また少数の客船が伏見から京都まで往復しています。

43 大津、堅田、比良【三井寺ヨリ唐寄堅田見ル】

大津には開化楼という名で知られる外国人用の快適なホテルがあります。

このホテルは湖畔の良い場所にあります。

三条から大津の距離は3里（約11.8 km）です。

堅田近くの湖の中に立つ建物⁷⁸に飛んでくる鳥たちも又最も良い風景の一つです。

その建物⁷⁹から湖のほぼ全景が見られます。

冬から春の始めまで雪に覆われた比良山は、特に夕方が大変良い風景です。

44 琵琶【近江八景一覧ノ圖】

京都の東にある琵琶湖は、沢山の美しい景色が全方向で見えるとても素晴らしい湖です。

湖の美しさは八つ⁸⁰あります。

1つ目は唐崎の変った松、2つ目は野生の雁が飛び降りる風景。

3つ目に粟津、4つ目に石山の秋の月光の夜、5つ目に瀬田の夕暮れ、6つ目に矢橋への船の航行、7つ目に雪の比良山の夕景、8つ目は三井寺からの景色で、この寺社に上れば、ほとんど全ての美しい景観が見られるでしょう。

45 唐崎【近江唐寄松】

唐崎の松は、先ほど言ったように、湖の周りの八つの珍しい風景⁸¹の一つです。

この木は湖岸で成長し、その枝は皆水の上を大きく広がっています。

この木は少なくとも樹齢200年から300年ほどだと言われています。

雨は枝から枝へたれ、ついに水の中に落ちる時、特別な音を立てます。

46 瀬田、粟津、石山【石山ヨリ勢田橋ヲ見ル】

湖の水の出口を横切る瀬田の橋は、最も有名で大きいものです。

夕景はとても美しく、多くの人が日暮れ時にやってきます。

粟津は湖岸のとても快適な場所です。

一番良い風景は風が吹き太陽が輝く時です。

この湖の波はその時銀のようにとても美しく見えます。

石山寺は、湖の水の出口近くの丘に立っており、湖の低い部分はここから見下ろすと一番良いかも知れません。

沢山の人が秋の月明りの夜にこの場所を訪れます。

47 比叡山【比叡山】

山々の中で最も高い山が京都の北東にある比叡山です。

この山の頂上近くには、延暦寺という名の大きな古い寺社が建っています。

延暦寺は桓武天皇が京都に都を作った際、創設されました。何世紀もの後、この寺社の僧はとても強力になり、時には他の寺社の僧たちと激しく戦い、ひどい虐殺や放火をしました。

一時期、数千人の僧が住んでいました。

1540（ママ）年に将軍（織田）信長に対しての戦いが起こり、とうとう信長に負け、すべての僧は殺され、立派な建物は灰塵に帰しました。

今日の宗教施設はその規模と素晴らしさにおいて、古い時代のものとは全く異なっています。

48

比叡山に上ると、琵琶湖のほとんどを見る事ができます。

比叡山は京都の周辺にある最も有名な風景の一つで、旅行者が山の頂上まで上る事は、大変価値があります。

三条から3里（約 11.8 km）です。

おわり⁸²

注

- 1 京都博覧協会「京都博覧会諸統計一覧表」『京都博覧会沿革誌』、1903年、より抜粋。
- 2 小嶋正亮「英文京都案内『CELEBRATED PLACES IN KIYOTO & THE SURROUNDING COUNTRIES FOR THE FOREIGN VISITORS』について」『宇治市歴史資料館年報平成29年度』宇治市歴史資料館、34頁。
- 3 同、40頁。
- 4 国立国会図書館デジタルコレクションにて公開されている。<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1900016>
- 5 /（スラッシュ）によって、これ以降の改行を表した。
- 6 原文では‘K. YAMAMOTO’である。
- 7 原文では‘NIWA’である。

- 8 原文は‘FOR FOREIGN VISITORS’であり、表紙にはない増補である。
- 9 原文は‘the seeds of story’である。
- 10 目次は原文では縦1列であるが、紙面の都合上3段組みで示す。
- 11 複製本には耳塚の頁があるものと、完全に削除されたものがある。例えば、京都府立総合資料館歴彩館所蔵の復刻本には耳塚が20に入っている。削除の有無を問わず、どちらも裏表紙の下方に「日本、京都の同志社大学図書館に保管されている原本から1981年2月に複製された。」(拙訳)と書かれている。
- 12 原文では‘MUMENOMIYA’である。精選版日本国語大辞典の梅の項目によると、「平安以後「むめ」と表記された例がかなり多い」とある。
- 13 目次は原文では縦1列であるが、紙面の都合上2段組みで示す。
- 14 原文では‘GRAVER KIOKUZAN. I’である。
- 15 原文では‘A SMALL JAPANESE SCHOOL’である。
- 16 原文では‘MAP OF THE SARROUNDING (ママ) PLACES OF THE TOWN KI-YOTO.’である。
- 17 1枚の表(京都市街)、裏(京都近郊)が描かれた銅版画の地図の事を述べている。
- 18 時代について、原文ではすべて西暦で示されている。原文は‘after the Christian era’である。「太政官布告第337号」の「京都府令書壬申十一月第二百七十一号」が明治5年11月9日に出され、明治5年12月3日が明治6年1月1日と定められた。いち早く西暦を取り入れ、外国人に便宜を図ったと考えられる。
- 19 「第二回は御所および仙洞御所庭園を借用」した。京都市『京都の歴史第八巻』1975年、131頁。「御所内の博覧会は紫宸殿から清涼殿の縁側を通り、内侍所までゆけ、広い縁側に出品が陳列されてあった。」青山霞村『山本覚馬伝』同志社、1928年、123頁。
- 20 原文は‘That in the right of the above named edifice is Sheirioden.’である。一般的に紫宸殿を正面に見ると、銅版画の通り、清涼殿は左奥に位置し、原文と違いがある。工藤泰子「明治初期の博覧会と観光」、2008年、95頁内、「御所御絵図」写真提供乃村工藝社、を見ると、紫宸殿を正面に見た右側(東側)の建春門に大博覧会の旗が立っている。建春門から見学者が入場したので、正面左に紫宸殿、その右奥に清涼殿が見える。この英文は入場口から見たまを書いていると思わ

れる。

- 21 本来は三条大橋から京都御所は北西の方角にある。
- 22 これ以降「町」は原文で全て ‘chios’ である。
- 23 原文では ‘as the two pillars with a transvers (ママ) beam’ である。
- 24 原文では ‘Hidari Jingoro’ であり、名字、名前の順である。
- 25 原文では ‘templekeeper’ と単数であるので、僧侶の中でも住職だと思われる。
- 26 原文では ‘very handsome indeed’ である。
- 27 原文では ‘a large Toro or stone lantern’ である。
- 28 熊野若王子 (2019)「熊野若王子」<https://nyakuouji-jinja.amebaownd.com/> によると、「現在は熊野若王子神社と称」とある。
- 29 原文では ‘momiji (maple)’ である。
- 30 原文では ‘Shinsai’ である。
- 31 原文では ‘Shirakawajoin’ である。
- 32 原文では ‘photograph’ であるが、実際は銅版画である。
- 33 ‘Gin’ が ‘silver’ であるという説明が本文中に一切ないので、読者には銀閣寺が銀箔で覆われたから銀閣と言う事について理解は難しかったと思われる。現在銀閣寺は ‘the Silver Pavilion’ のニックネームで知られる。
- 34 原文では ‘over this capital’ である。
- 35 小林丈弘、高木博志、三枝暁子『京都の歴史を歩く』岩波書店、2016 年、42 頁によると、「明治五年（1872）の京都博覧会で入京を許された外国人は、円山一帯を宿舎とした。」とある。
- 36 原文では ‘the halls’ である。
- 37 原文では ‘Midabuds’ である。
- 38 原文では ‘the great prince, Shiotoku’ である。
- 39 原文では ‘the faith of Daihi’ である。
- 40 原文では ‘the religion’ であるが、本文内には仏教という言葉が一つもない。
- 41 原文では ‘Meganebash (spectacles-bridge)’ である。
- 42 ‘Daibutsu’ の属する宗教については言及がない。
- 43 原文に ‘also’ がある。
- 44 原文では ‘lighting’ である。‘lightening’ と思われる。

- 45 原文では ‘But now’ である。しかし内容から「しかしその時代」とした。
- 46 原文では ‘Kanjeon’ である。
- 47 原文では ‘&c’ である。
- 48 原文では ‘Morotsugu’ であるが、都名所図会巻三には「文徳帝の（中略）左大臣緒継公」と記載がある。（『新修京都叢書』第六巻、野間光辰編、臨川書店、1994年、286 頁。）
- 49 原文では ‘fir trees’ について、研究社発行『新英和大辞典第六版』（2002）によると「1. モミ：a. マツ科のモミ属（Abies）の樹木の総称」である。本書では、一般的に林、森について全て ‘fir trees’ と述べている。
- 50 原文では ‘is a very famous for tea’ である。
- 51 原文では ‘Ris’ としている。
- 52 原文では ‘Fukushin’ である。福清県出身の隠元禅師かと思われる。
- 53 原文では ‘in the south of Matuwara in Horikawa’ である。
- 54 原文では ‘Kukai Kobo’ である。
- 55 原文では ‘a high tower (Towu)’ である。
- 56 原文では ‘most worshipped persons in this country’ である。
- 57 原文では ‘Kanko’ である。
- 58 原文では ‘those of Nishiyama’ である。
- 59 原文では改行されている。
- 60 原文では ‘crean’ である。
- 61 原文では ‘the red leaves that become all red’ である。
- 62 原文では ‘the gay redleaves’ である。
- 63 原文では ‘the religion’ であり、文中に「仏教」を直接示す語はない。
- 64 原文では ‘Chionen’ である。
- 65 原文では ‘one of the highest temples’ である。
- 66 原文では ‘Miya’ である。
- 67 原文では ‘Taitokokushi’ である。
- 68 原文では ‘very thin gold’ である。
- 69 原文では ‘tower’ である。現在は ‘Golden Pavilion’ と一般的に呼ばれている。
- 70 原文では ‘at ancient time’ である。

- 71 原文では ‘somedresses’ である。
- 72 原文では ‘at this time’ である。博覧会の事を指していると思われる。
- 73 原文では ‘neckclothes’ である。
- 74 原文では ‘for a great value’ である。
- 75 原文では ‘the race’ である。
- 76 原文では ‘SHIMOGAMO’ である。目次には ‘SHIMOGAMO’ とある。
- 77 原文では ‘Honshia or the building where the deity is put’ である。
- 78 原文では ‘the building’ である。「湖の中に建てられた建物」であるので、堅田の浮御堂かと思われる。
- 79 原文では ‘house’ である。
- 80 近江八景である。例えば『日本国語大辞典〔縮刷版〕第二巻』には、近江八景とは近江国（滋賀県）、琵琶湖南部の湖畔にみられた八つの景勝で、「三井の晩鐘、唐崎の夜雨、堅田（かただ）の落雁、栗津の晴嵐、矢橋（やばせ）の帰帆、比良の暮雪、石山の秋月、瀬田の夕照をいう」と書かれている。
- 81 原文では ‘one of the eight remarkable things’ である。
- 82 原文では ‘THE END’ である。

